タイトル：ノブヲ

元にしたタイトル：なし

著者名：吉田優太

あらすじ：いじめられている少年、ノブヲがいた。彼は毎日のようにいじめられており、嫌気がさしていた。彼は日々のストレスを妄想で解消する。そんな妄想をしていくうちにノブヲはどんどん卑屈になっていく。そんな状況に陥ってしまったノブヲのある日の出来事。

アピールポイント：中学3年生が初めて脚本を書いてみました。正直こういう場に応募したことなんてないので、あまり自信はありませんが映画に対しての熱意は誰にも負けない自信はあります。好きな映画は「シティ・オブ・ゴット」です。

文字数：2130字

◯グラウンド（昼）

男子生徒が息を荒くして突っ立っている

◯廊下(朝)

ノブヲ（15）がリュックを背負って歩いている

西森(15)「うえ～い」ノブヲを蹴る

岩橋(15)「あ～い」ノブヲを倒す

伊藤(15)「おりゃ！」ノブヲを蹴る

岩橋、西森、伊藤がノブヲを蹴り続ける

ノブヲが蹴られながらタイトルが出る

三人がどこかに行き、ノブヲが廊下で倒れているところを西村が心配しにくる

佐藤（15）「だ、大丈夫？」

ノブヲ「あ、はい…なんとも…」

佐藤「保健室行かなくて大丈夫？」

ノブヲ「ほ、保健？」

佐藤「ん？なんて？」

ノブヲ「あ、じゃあお願いします…」

佐藤「一応一緒に行こうか。」

◯保健室前廊下(朝)

ノブヲ「あの…なんで佐藤さんは…」

佐藤「え？なんて？」

ノブヲ「いやなんでもないです…」

佐藤「先生いますかー？」

先生「あら、りなちゃん。どうしたの？」

佐藤「いや、なんかこの子が廊下で倒れてたから」

ノブヲ「え、まあはい。」

先生「ああそうなの？腹痛とか？」

ノブヲ「いや、僕はその…」

佐藤「そうみたい。なんかうずくまっててさあ。ね？」

ノブヲの脳内で以下のことが繰り広げられる

佐藤の胸ぐらを掴みながら

ノブヲ「お前見てただろ！？俺が蹴られてるところをさあああああ！！このアバズレ芋女がああああああああああああああああああああ」

ノブヲの妄想終了

ノブヲ「え…はい…はい」

先生「じゃあ保健室でちょっと寝ていこうか。担任の先生は誰？」

ノブヲ「岡村先生です…」

先生「じゃあ連絡しとくね。そこのベッドで休んでて」

ノブヲ「分かりました…」

◯保健室(朝)

ノブヲがツカツカと保健室のベットに近づきベッドの中に入る

ノブヲが天井を見つめる

ノブヲがチラリと佐藤と会話している先生の方を見る

妄想が繰り広げられる

ノブヲが銃を持ち、先生の方に近づき先生を後ろから撃つ

妄想終了

ノブヲがベッドの中でうずくまる

◯教室(朝)

岡村「あれ？奥村はいないのか？誰か知らないか？」

誰も話を聞いていない

岡村「はーいこれで朝のショートホームを終わります。姿勢、礼」

伊藤「あれ？ノブヲは？」

岩橋「ほんとだ。いませんねえ」

伊藤「まあいいや」

西森「俺トイレ行くわー」

岩橋「うい」

◯廊下(朝)

西森が教室から出て、トイレに向かう

◯トイレ（朝）

西森が小便器を使用している際、西森の妄想が始まる

西森が用を足している最中に後ろからノブヲが現れ、縄で首を絞められる

西森の妄想が終わる

◯教室(朝)

伊藤「あのさ、ノブヲの親って犯罪者らしいよ」

岩橋「え！？それマジ？」

伊藤「噂だよ？」

岩橋「やばすぎるだろwww」

西森が帰ってくる

岩橋「あ、西森！知ってる？ノブヲの親が犯罪者だって」

西森「しらね。俺はちょっと寝るわ」

岩橋「つまんねーの」

少し無言が続く

岩橋「てかノブヲのあの目見た？」

伊藤「どの目？」

岩橋「あの目だよ。あの時の」

伊藤「だからいつの？」

岩橋「俺らがあいつを蹴ってた時の目だよ」

伊藤「いや見てないわ」

岩橋「もうね。すごいですよ？なんかねー俺らを憎んでるみたいな」

伊藤「まあそりゃあね」

岩橋「なんだよ、お前まで。なんかお前らつまんねーぞ」

伊藤「はいはい」

伊藤がそっぽを向く

岩橋「けっ、カッコつけやがって。そんなんしてもモテねえのによ」

教師のドアが開き、ノブヲが入ってくる

岩橋「あ、来たよ」

伊藤「ほんとだ」

岩橋「さっき俺が見たあいつの目お前にも見せてやるからさ、後で小部屋来いよ？」

伊藤「オッケー」

チャイムが鳴り、授業が始まる

ノブヲが授業中外を見る

チャイムが鳴り、授業が終わる

岩橋「ノブヲ、ちょっと来てよ」

◯小部屋(昼)

岩橋がノブヲの腹を殴る

ノブヲがよろけ、岩橋たちを睨みつける

岩橋「こ、これだよぉ」

伊藤「うわー…これきついなあ」

岩橋「なんか…なあ…」

ノブヲの妄想が始まる

ノブヲが岩橋を押し倒し、馬乗りになり、殴り続ける

ノブヲの妄想が終わる

伊藤「も、もう行こうや」

岩橋「あ、うん…」

◯教室(昼)

西森「お前らどこいたの？」

岩橋「いやさ、ノブヲを殴ってたらさ…」

西森「悪い、先トイレ行くわ」

岩橋「お、おう」

伊藤「にしてもやばかったなあ。今まで気づいたこともなかったわ」

岩橋「俺はやっぱりさぁ、あいつには才能があると思ったよ？」

伊藤「なんだそれー」

お互い場を和まそうとするが、ノブヲの目つきを忘れられない

しばらく無言が流れる

岩橋「あ、あのさあ、ノブヲの親が犯罪者ってやつ、本当なのかなあ…」

伊藤「んなわけあるかよ！そんなの噂だよ！」

岩橋「だ、だよなあ…」

しばらく無言が流れたのち、チャイムが鳴る

先生「はい。では授業を始めます。あ、奥村。早く席につけ」

ノブヲが教室に入ってくる

ノブヲが席に座る

授業中にノブヲの妄想が始まる

ノブヲが椅子で伊藤の頭を叩き割る

止めに入った岩橋を押し倒し、首を絞める

ノブヲが首を絞め続ける

岩橋が気を失う

ノブヲの妄想が終わるが、状況が同じ

教室にいる生徒たちが席を立ち、唖然としている

一瞬トイレの小便器で血を流して倒れている西森が映る

女子生徒が教室の光景を見て叫ぶ

◯グラウンド（昼）

場面がグラウンドに映り、マラソンをしている生徒たちが映る

男子生徒①が隣にいる男性生徒②に尋ねる

男子生徒①「でかい虫出たんかな？」

男子生徒②が疲れ切った様子で答える

男子生徒②「知らねえよ」

（男子生徒①②は走り終わっている）

終